



(様式第 10)

高大医医 1 2 号
平成 2 9 年 1 0 月 2 日

厚生労働大臣 殿

(管理者)

高知大学医学部附属病院長 横山 彰仁

高知大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 2 8 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号
氏 名	国立大学法人高知大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

高知大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185番地1 電話(088)-866-5811

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科 2消化器内科 ③循環器内科 4腎臓内科	
⑤神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績	
1呼吸器内科、2消化器内科、4腎臓内科、6血液内科、7内分泌内科、8代謝内科、9感染症内科、10アレルギー疾患内科またはアレルギー科、11リウマチ科については「内科」で提供	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 8小児外科	
診療実績 1呼吸器外科、8小児外科については「外科」で提供	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制 本院は開院時より歯科医療機関として認可を受け、適切な体制のもとに歯科診療を行っている。 現在、常勤歯科医師4名、非常勤歯科医師10名が従事しており、平成28年度は1日あたり外来患者74.2人、入院患者10.7人の歯科診療を行っている。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科 2頭頸部外科 3リハビリテーション科 4病理診断科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	床	床	床	583床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	181人	176人	331.1人	看 護 補 助 者	58人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	4人	10人	10.3人	理 学 療 法 士	12人	臨床検査技師	50人
薬 剤 師	39人	0人	39人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	9人	2人	11人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	520人	85人	598.9人	臨 床 工 学 士	21人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	0人	1人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	9人
歯 科 衛 生 士	0人	5人	5人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	165人
管 理 栄 養 士	9人	2人	11人	診 療 放 射 線 技 師	31人	そ の 他 の 職 員	48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	29人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	24人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	15人	脳 神 経 外 科 専 門 医	8人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整 形 外 科 専 門 医	13人
泌 尿 器 科 専 門 医	7人	麻 酔 科 専 門 医	9人
産 婦 人 科 専 門 医	12人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	173人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (横山 彰仁) 任命年月日 平成26年4月1日

H20.4.1~H21.3.31	医療安全管理部	副部長
H21.4.1~H23.3.31	医療安全管理部	部長
H23.4.1~H24.3.31	医療安全管理部	副部長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	437.6人	10.7人	448.3人
1日当たり平均外来患者数	953.1人	74.2人	1,027.3人
1日当たり平均調剤数	689剤		
必要医師数	103人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	15人		
必要（准）看護師数	259人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	254.442 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	12床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 105.85m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 6床			
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 m ² [共用室の場合] 共用する室名 病棟薬剤業務室・薬品情報室					
化学検査室	584m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動血球計数装置 塗沫標本作製装置 血液凝固測定装置 全自動生化学分析装置 自動免疫化学測定装置 血液ガス分析装置 血糖測定装置 ヘモグロビンA1C測定装置 酵素免疫測定装置 肝炎ウイルス関連検査			
細菌検査室	142m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 炭酸ガス培養装置 孵卵器 自動細菌検査装置 自動血液培養装置 嫌気培養装置 安全キャビネット 高圧蒸気滅菌器			
病理検査室	223m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) ドラフトチャンバー			
病理解剖室	58m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 陰圧室、解剖台			
研究室	5,002m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 流し台、実験台			
講義室	283m ²	鉄筋コン クリート	室数	1室	収容定員	264人
図書室	897m ²	鉄筋コン クリート	室数	7室	蔵書数	13万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.8%	逆紹介率	63.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数		10,347人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,924人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		588人
	D: 初診の患者の数		14,054人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状況
吉川 清志	高知医療センター 病院長	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	有・ <input type="radio"/> 無	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有 する者	有・ <input type="radio"/> 無	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有・ <input type="radio"/> 無	1
赤澤 正人	愛媛大学医学部 運営部長		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・ <input type="radio"/> 無	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
久米 基彦	高知大学医学部附属病院 医療安全管理部 医師専 任リスクマネジャー		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 本院 HP に公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	65
2	筋萎縮性側索硬化症	25	57	特発性拡張型心筋症	34
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	22
6	パーキンソン病	49	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	42
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	39	66	IgA腎症	39
12	先天性筋無力症候群	3	67	多発性嚢胞腎	28
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	20	68	黄色靱帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	3	69	後縦靱帯骨化症	59
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	37
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	35	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	4
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	16	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	26
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	12	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	95
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	12
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	9
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	15	90	網膜色素変性症	15
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	22
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	30
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	57
43	顕微鏡的多発血管炎	20	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	5	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	14	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	10	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	164	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	81	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	112	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	30	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	19	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	10	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	4
122	脳表へモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	1	173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスマンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鯉耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ベルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシユスブルグ病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・歯科外来診療環境体制加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・特定機能病院入院基本料	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算1	・入院時食事療養/生活療養(I)
・医師事務作業補助体制加算1	・
・急性期看護補助体制加算	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2	・
・退院支援加算3	・
・精神疾患診療体制加算	・
・特定集中治療室管理料1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

1/3

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・ヘッドアップティルト試験
・高度難聴指導管理料	・人工臓器検査、人工臓器療法
・糖尿病合併症管理料	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料1	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料2	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん患者指導管理料3	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・有床義歯咀嚼機能検査
・外来放射線照射診療料	・画像診断管理加算1
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算2
・開放型病院共同指導料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・運動器リハビリテーション料(I)
・国際標準検査管理加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・胎児心エコー法	・リンパ浮腫複合的治療料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・集団コミュニケーション療法料

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科口腔リハビリテーション料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・精神科作業療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・認知療法・認知行動療法2	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医療保護入院等診療料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・硬膜外自家血注入	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・磁気による膀胱等刺激法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・手術用顕微鏡加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
・手術時歯根面レーザー応用加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・CAD/CAM冠	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・歯科技工加算1及び2	・補助人工心臓
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を行うものに限る。)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る)	・腹腔鏡下肝切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・羊膜移植術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術、人工中耳用材料	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料(I)	・
・麻酔管理料(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・保険医療機関の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科矯正診断料	・
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係わるもの)	・

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	小野 正文	光学医療診療部	450,000	補委 国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター
肺癌細胞の浸潤に関わる低分子量Gタンパク質を活性抑制するペプチド配列の同定	岩崎 信二	消化器内科学	1,090,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
NASH発症における自然免疫防御反応とKupffer細胞の機能分化の解析	小野 正文	消化器内科学	810,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
AGE-RAGE系とレニン-アンギオテンシン系を介したNASH肝線維化メカニズム	廣瀬 亨	消化器内科学	320,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
胃内ピロ菌フローラ(遺伝子多様性)形成と各種疾患・病態との関連性の解明	水田 洋	消化器内科学	1,050,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
PNPLA3遺伝子改変マウスを用いたERストレスを介するNASH発症・病因の解明	小笠原 光成	消化器内科学	1,100,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
自然肝発症するNASHモデルマウスでのPPAR-αを介した発症抑制の分子機構	西原 利治	消化器内科学	1,160,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
膵がん細胞から分泌されたエクソソーム由来RNAを用いた新規診断マーカーの開発	谷内 恵介	消化器内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
エクソソーム内microRNAを活用した次世代腎臓病バイオマーカーと治療法の開発	堀野 太郎	内分泌代謝・腎臓内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
グルココルチコイドによる腎機能障害におけるTBP-2の役割の解明	藤本 新平	内分泌代謝・腎臓内科学	910,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
IgG4関連疾患の新規診断法の確立、病態解明、その腫瘍化の検討	谷口 義典	内分泌代謝・腎臓内科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
klotho遺伝子を介したオートファジー調節による新規治療法の基礎的研究	島村 芳子	内分泌代謝・腎臓内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
急性腎障害でのミトコンドリアとインフラゾームの調整による新規治療法の開発	寺田 典生	内分泌代謝・腎臓内科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
視床下部 Agouti 関連蛋白のクッシング症候群における役割の解明	中山 修一	内分泌代謝・腎臓内科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
サイログロブリン遺伝子異常症の臨床像および甲状腺発症メカニズムの解明	次田 誠	内分泌代謝・腎臓内科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
成人の優性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	窪田 哲也	血液・呼吸器内科学	500,000	補委 国立感染症研究所 感染症疫学セン ター
トロンボモジュリン変異体による新規血管内皮保護薬の開発	池添 隆之	血液・呼吸器内科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
肥大型心筋症の病因遺伝子解析と病態修飾因子の解明	久保 亨	老年病・循環器・神経内科学	810,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
病初期・未治療パーキンソン病における非運動症状と脳機能画像の追跡	大崎 康史	老年病・循環器・神経内科学	1,160,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
深部脳電気刺激による起立性低血圧治療の検討	弘田 隆省	老年病・循環器・神経内科学	1,850,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
EBウイルス感染に伴い発現変化するBリンパ腫細胞遺伝子の網羅的解析	藤枝 幹也	小児思春期医学	491,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
バイオイメージング法を用いた子宮内腫瘍腫瘍免疫細胞の遊走能評価	牛若 昂志	産科婦人科	1,690,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
治療標的遺伝子のメチル化及びCNVによる気分障害の治療抵抗性マーカーの創出	森信 繁	神経精神科学	1,625,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
多面的アプローチを用いた高次脳機能障害患者の復職支援プログラムの開発	上村 直人	神経精神科学	1,200,000	補委 熊本大学
乾癬モデルマウスを用いた乾癬性関節炎の発症機序の解明	中島 英貴	皮膚科学	1,850,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会

小計25

29,766,000

小計25

再プログラム因子導入による間葉上皮移行の誘導と癌転移の制御	高石 樹朗	皮膚科学	2,810,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Mowat-Wilson症候群の原因遺伝子ZEB2のコラーゲン合成経路への関与	寺石 美香	皮膚科学	1,130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乾癬の病態形成における好中球の役割	志賀 建夫	皮膚科学	1,950,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IL-36シグナルを介した表皮細胞-樹状細胞間クロストークによる乾癬発症機序解明	大湖 健太郎	皮膚科学	1,070,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
発症機序最上流に表皮リリア機能異常があるという新視点による乾癬表皮-免疫病態解明	中島 喜美子	皮膚科学	1,670,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
紫外線照射による全身性ループス増悪の病態解明	佐野 栄紀	皮膚科学	6,240,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
子宮筋腫に対する子宮腔内温水洗浄下凍結療法の実証	山上 卓士	放射線医学	2,745,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工肺臓を用いた新しい血精変動モデルの確立と血精変動が生体に及ぼす病態の解明	花崎 和弘	外科学(外科1)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Shaggy aortaに対する新たな治療法-メッシュグラフトの開発	福富 敬	外科学(外科2)	680,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
3次元画像造影と近赤外線マーキングによる新規イメージガイド手術支援システムの開発	穴山 貴嗣	外科学(外科2)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
心音を用いたPEPの測定と循環管理への応用	山下 幸一	麻酔・蘇生学	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術後認知機能障害の分子機序解明と周術期予防戦略	河野 崇	麻酔・蘇生学	1,330,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経障害性痛における海馬BDNFの役割と治療応用への基礎的研究	横山 正尚	麻酔・蘇生学	1,590,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
集中治療患者における蛋白投与量が予後に与える影響に関する多国間多施設共同研究	矢田部 智昭	麻酔・蘇生学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
慢性的痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	河野 崇	麻酔・蘇生学	400,000	補委	愛知医科大学
関節疾患におけるアンドーシス起因性疼痛と関節破壊のメカニズム	池内 昌彦	整形外科学	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
踵板断裂層における上腕二頭筋長頭腱由来の痛みと神経支配の特徴	泉 仁	整形外科学	2,470,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
経口免疫寛容によるアレルギー性結膜炎の治療	福島 敦樹	眼科学	1,690,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
バクテリオファージの溶菌活性を利用した細菌感染性眼疾患の新規治療法の開発	福田 憲	眼科学	385,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
温度感覚刺激、嗅覚刺激を介した新たな嚥下障害治療法の開発と嚥下機能の解明	松本 宗一	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
バクテリオファージの溶菌活性を利用した慢性中耳炎の新規治療法確立のための基礎研究	小森 正博	耳鼻咽喉科学	580,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
4Dコンピュータグラフィクスによる嚥下メカニクスの可視化と嚥下障害治療への応用	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
嚥下に関わる脳の神経制御機構のイメージング解析と脳の可塑性からみた嚥下障害治療	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
痙攣性発声障害の診断基準および重症度分類の策定に関する研究	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	1,400,000	補委	高知大学
悪性脳腫瘍の分化制御におけるメチル化CpG結合タンパクMBD1の機能的解析	上羽 哲也	脳神経外科	810,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
グノムインプリンティングの異常によるマウス脳腫瘍モデルの構築	福田 真紀	脳神経外科	840,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
膀胱癌におけるヘムオキシゲナーゼ1の役割の解明と発現誘導による抗癌効果の検討	井上 啓史	泌尿器科学	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎がんに対するイミキモドとチロシンキナーゼ阻害剤の新規併用療法	辛島 尚	泌尿器科学	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

小計28

39,760,000

小計28

口腔扁平苔癬発症におけるインフラマソームの関わり	北村 直也	歯科口腔外科	1,620,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における腫瘍関連マクロファージによる抗薬剤耐性機序の解明	笹部 衣里	歯科口腔外科	1,620,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
SPARCを介する細胞融合制御による口腔扁平上皮癌の予防に向けての基礎的研究	山本 哲也	歯科口腔外科	840,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
エクソソーム取り込みを標的とする口腔癌治療薬の探索	仙頭 慎哉	歯科口腔外科	1,260,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PRF+ナノアパタイトと脂肪幹細胞による顎骨再生療法の基礎研究	吉澤 泰昌	歯科口腔外科	1,820,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における血清エクソソームを用いた診断法の開発	國藤 潤	歯科口腔外科	480,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
積極的監視培養および除菌による病棟内MRSA分離率の低減	武内 世生	総合診療部	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌体膜蛋白による血小板活性化とマクロファージの免疫応答に関する解析	森本 徳仁	検査部	760,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
蛋白分画波形を用いた栄養モニタリングを支援する微量元素の指定	久原 太助	検査部	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
起立性低血圧治療のための自動空圧パンツの開発	山崎 文靖	検査部	2,110,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
感染・炎症に関連して発生する呼吸器腫瘍の病態および腫瘍化機構の解明	上岡 樹生	病態情報診断学	431,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
急性冠症候群におけるピロリ菌由来血小板活性化成分とマクロファージの関与	杉浦 哲朗	病態情報診断学	590,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ピロリ菌の細胞分裂・形態制御機構とその関連病態(病原性)の解明	竹内 啓晃	病態情報診断学	1,150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
筋電計による小殿筋の質的評価と小殿筋の選択的筋力強化方法の検討	室伏 祐介	リハビリテーション部	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
認知機能障害による2次介護予防対象者への、新しい評価法の検証と訓練の有用性調査	石田 健司	リハビリテーション部	1,520,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳性麻痺児における視覚的効果を利用した匍匐動作誘発の提案	細田 里南	リハビリテーション部	1,395,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢化社会に対応する経皮吸収型嚥下機能改善剤の開発	宮村 充彦	薬剤部	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高知果産ショウガの腸管免疫機能活性化に関する基礎的研究	飯塚 美知郎	薬剤部	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ショウガを利用した嚥下反射改善能を有する口腔内崩壊錠の開発	阿部 譲朗	薬剤部	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
卵巣癌幹細胞におけるLSRの機能解析と癌再発を克服する画期的治療法の開発	仲 哲治	次世代医療創造センター	2,080,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
適切な医療を目指した認知症障害者等の患者の情報登録及び連携に関する研究	北岡 裕章	老年病科	1,200,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイル予防プログラムの開発・検証	北岡 裕章	老年病科	737,447	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
強力な筋分化誘導能を有するマイクロRNAを用いた新規筋疾患治療アプローチの開発と確立	古谷 博和	神経内科学	1,950,000	補委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
「日本一の長寿県構想」に資する高度脳画像クラウドの研究開発	森信 繁	神経精神科学	565,488	補委	総務省四国総合通信局
メンタルヘルスリテラシーのための方法論・ガイドラインの開発に関する研究	下寺 信次	神経精神科学	1,000,000	補委	学校法人東邦大学
骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存的初期治療の指針策定	武政 龍一	整形外科	100,000	補委	国立大学法人東京医科歯科大学
超音波治療用モジュール化トランスデューサーの開発	川崎 元敬	整形外科	3,000,000	補委	国立研究開発法人産業技術総合研究所
薬物動態・メタボローム統合解析による麻黄湯の有用性・安全性についての研究	花崎 和弘	外科学	4,940,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計28

37,178,935

小計28

外科手術症例登録データならびに医療費データの連携に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究	花崎 和弘	外科学	395,000	補 委	国立大学法人山口大学
治療の実施に関する研究【5ALA】	並川 努	外科学	559,999	補 委	公益社団法人日本医師会
慢性呼吸器障害に対するA型ボツクス毒素(ボツクス)の甲状腺筋/後輪状筋裂筋内局所注入療法の有効性と安全性に関する研究	兵頭 政光	耳鼻咽喉科学	7,684,731	補 委	公益社団法人日本医師会治療促進センター
虚弱高齢者のための児童、生徒参加型高齢者健診と運動器リハモデルに関する研究	永野 靖典	リハビリテーション部	400,000	補 委	黒潮町
易転倒方向評価訓練機器による認知機能改善の検証	永野 靖典	リハビリテーション部	1,175,275	補 委	国立大学法人九州大学
血液中のGlypican-1を定量的に高感度ELISAシステムを構築、並びに、食道癌に対する抗Glypican-1抗体の作用機序の解明	世良田 聡	次世代医療創造センター	9,100,000	補 委	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
LSRを標的とした新規作用機序(脂質代謝制御)を有する周期的抗癌抗体療法による卵巣癌治療法の開発	仲 哲治	次世代医療創造センター	7,800,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
		小計7	27,115,005		
		合計88	133,819,940		

小計7

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院におけ る所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Munekage M, Kohsaki T, Uemura S, 他	内科(消化器)	Mucinous cystadenocarcinoma of the pancreas with anaplastic carcinoma: A case report and review of the literature.	Mol Clin Oncol 2016 Apr;4(4):483-486.	Case report
2	Ochi T, Munekage K, Ono M, 他	内科(消化器)	Patatin-like phospholipase domain-containing protein 3 is involved in hepatic fatty acid and triglyceride metabolism through X-box binding protein 1 and modulation of endoplasmic reticulum stress in mice.	Hepatol Res 2016 May;46(6):584-92.	Original Article
3	Ono M, Saibara T.	内視鏡診療部	Are genetic variations the most important risk factors for development of hepatocellular carcinoma?	J Gastroenterol 2016 Apr;51(4):404-5.	Others
4	Taniuchi K, Furihata M, Naganuma S, 他	内視鏡診療部	Podocalyxin-like protein, linked to poor prognosis of pancreatic cancers, promotes cell invasion by binding to gelsolin.	Cancer Sci. 2016 Oct;107(10):1430-1442.	Original Article
5	Tanouchi A, Taniuchi K, Furihata M, 他	内科(消化器)	CCDC88A, a prognostic factor for human pancreatic cancers, promotes the motility and invasiveness of pancreatic cancer cells.	J Exp Clin Cancer Res 2016 Dec 5;35(1):190.	Original Article
6	Tsuboi M, Taniuchi K, Furihata M, 他	内科(消化器)	Vav3 is linked to poor prognosis of pancreatic cancers and promotes the motility and invasiveness of pancreatic cancer cells.	Pancreatology 2016 Sep-Oct;16(5):905-16.	Original Article
7	Taniguchi Y, Nishikawa H, Nakayama S, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Clinical implications of ultrasonography in monitoring disease activity of relapsing polychondritis.	Rheumatology (Oxford). 2016 Jul;55(7):1250.	Original Article
8	Horino T, Ichii O, Hamada-Ode K, 他	内科(内分泌代謝・腎臓)	Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma: A case report.	Mol Clin Oncol. 2016 Dec;5(6):693-696.	Case report
9	Taguchi T, Karashima T, Terada Y.	内科(内分泌代謝・腎臓)	Adrenal and thyroid metachronous metastases from renal cell carcinoma.	Endocrine. 2016 Jul;53(1):335-6.	Case report
10	Taguchi T, Sugimoto T, Terada Y.	内科(内分泌代謝・腎臓)	Cystic parathyroid adenoma with intracystic hemorrhage.	Endocrine. 2016 May;52(2):399-400.	Case report

11	Nishioka C, Ikezo T, Yang J, 他	内科(血液・呼吸器)	BCR/ABL increases EZH2 levels which regulates XIAP expression via miRNA-219 in chronic myeloid leukemia cells.	Leuk Res. 2016 Jun;45:24-32.	Original Article
12	Mori M, Ikezo T, Arakawa Y, 他	内科(血液・呼吸器)	Digital necrosis associated with chronic cold haemagglutinin disease.	Br J Haematol. 2016 Aug;174(3):343.	Case report
13	Pan B, Wang X, Kojima S, 他	内科(血液・呼吸器)	The fifth epidermal growth factor like region of thrombomodulin alleviates LPS-induced sepsis through interacting with GPR15.	Thromb Haemost. 2017 Feb 28;117(3):570-579.	Original Article
14	Kubo T, Ochi Y, Baba Y, 他	内科(老年病・循環器)	Prevalence and clinical features of Fabry disease in Japanese male patients with diagnosis of hypertrophic cardiomyopathy.	J Cardiol. 2017 Jan;69(1):302-307.	Original Article
15	Yamamoto M, Shimizu T, Shimizu S, 他	小児科	Effect of naftopidil on brain noradrenaline-induced decrease in arginine-vasopressin secretion in rats.	J Pharmacol Sci. 2016 Sep;132(1):86-91.	Original Article
16	Fujieda M, Tsuruga K, Sato T, 他	小児科	Monitoring of Epstein-Barr virus load and killer T cells in patients with juvenile idiopathic arthritis treated with methotrexate or tocilizumab.	Mod Rheumatol. 2017 Jan;27(1):66-71.	Original Article
17	Takamura S, Ikeda A, Nishioka K, 他	精神科	Schizophrenia as a prodromal symptom in a patient harboring SNCA duplication.	Parkinsonism Relat Disord. 2016 Apr;25:108-9.	Original Article
18	Takaishi M, Tarutani M, Takeda J, 他	皮膚科	Mesenchymal to Epithelial Transition Induced by Reprogramming Factors Attenuates the Malignancy of Cancer Cells.	PLoS One. 2016 Jun 3;11(6):e0156904.	Others
19	Hashida Y, Nakajima K, Nakajima H, 他	皮膚科	High load of Merkel cell polyomavirus DNA detected in the normal skin of Japanese patients with Merkel cell carcinoma.	J Clin Virol. 2016 Sep;82:101-107.	Others
20	Hashida Y, Kamioka M, Tanaka M, 他	皮膚科	Ecology of Merkel Cell Polyomavirus in Healthy Skin Among Individuals in an Asian Cohort.	J Infect Dis. 2016 Jun 1;213(11):1708-16.	Others
21	Takata T, Takahashi A, Taniguchi Y, 他	皮膚科	Detection of asymptomatic enthesitis in psoriasis patients: An onset of psoriatic arthritis?	J Dermatol. 2016 Jun;43(6):650-4.	Others
22	Takahashi A, Nakajima K, Togitani K, 他	皮膚科	Spontaneous remission of aleukemic cutaneous myeloid sarcoma followed by crisis of acute monoblastic leukemia.	J Dermatol. 2016 Apr;43(4):452-3.	Case report

23	Aoyama N, Ogawa Y, Yasuoka M, 他	放射線科	Therapeutic response to a novel enzyme-targeting radiosensitization treatment (KORTUC II) for residual lesions in patients with stage IV primary breast cancer, following induction chemotherapy with epirubicin and cyclophosphamide or taxane.	Oncol Lett. 2017 Jan;13(1):69-76.	Original Article
24	Namikawa T, Munekage E, Munekage M, 他	外科(一)	Reconstruction with Jejunal Pouch after Gastrectomy for Gastric Cancer.	Am Surg. 2016 Jun;82(6):510-7.	Original Article
25	Namikawa T, Munekage E, Munekage M, 他	外科(一)	Synchronous Large Gastrointestinal Stromal Tumor and Adenocarcinoma in the Stomach Treated with Imatinib Mesylate Followed by Total Gastrectomy.	Anticancer Res. 2016 Apr;36(4):1855-9.	Original Article
26	Kitagawa H, Yatabe T, Namikawa T, 他	外科(一)	Postoperative Closed-loop Glycemic Control Using an Artificial Pancreas in Patients After Esophagectomy.	Anticancer Res. 2016 Aug;36(8):4063-7.	Original Article
27	Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, 他	外科(一)	Analysis of Factors Associated with Weight Loss After Esophagectomy for Esophageal Cancer.	Anticancer Res. 2016 Oct;36(10):5409-5412.	Original Article
28	Takezaki Y, Namikawa T, Koyama T, 他	外科(一)	Antitumor Effects of Eribulin Mesylate in Gemcitabine-resistant Pancreatic Cancer Cell Lines.	Anticancer Res. 2016 Nov;36(11):6077-6082.	Original Article
29	Namikawa T, Kobayashi M, Hanazaki K	外科(一)	Unusual Thickened Gastric Folds in a Patient With Breast Cancer.	Gastroenterology. 2017 Jan;152(1):e8-e9.	Others
30	Munekage M, Yatabe T, Sakaguchi M, 他	外科(一)	Comparison of subcutaneous and intravenous continuous glucose monitoring accuracy in an operating room and an intensive care unit.	J Artif Organs. 2016 Jun;19(2):159-66.	Original Article
31	Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, 他	外科(一)	Current topics in glycemic control by wearable artificial pancreas or bedside artificial pancreas with closed-loop system.	J Artif Organs. 2016 Sep;19(3):209-18.	Original Article
32	Namikawa T, Munekage M, Kitagawa H, 他	外科(一)	Comparison between a novel and conventional artificial pancreas for perioperative glycemic control using a closed-loop system.	J Artif Organs. 2017 Mar;20(1):84-90.	Original Article
33	Tanouchi A, Taniuchi K, Furihata M, 他	外科(一)	CCDC88A, a prognostic factor for human pancreatic cancers, promotes the motility and invasiveness of pancreatic cancer cells.	J Exp Clin Cancer Res. 2016 Dec 5;35(1):190.	Original Article
34	Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, 他	外科(一)	Outcomes of thoracoscopic esophagectomy in prone position with laparoscopic gastric mobilization for esophageal cancer.	Langenbecks Arch Surg. 2016 Aug;401(5):699-705.	Original Article

35	Munekage M, Kohsaki T, Uemura S, 他	外科(一)	Mucinous cystadenocarcinoma of the pancreas with anaplastic carcinoma: A case report and review of the literature.	Mol Clin Oncol. 2016 Apr;4(4):483-486.	Original Article
36	Namikawa T, Munekage E, Munekage M, 他	外科(一)	Evaluation of Systemic Inflammatory Response Biomarkers in Patients Receiving Chemotherapy for Unresectable and Recurrent Advanced Gastric Cancer.	Oncology. 2016;90(6):321-6.	Original Article
37	Namikawa T, Kawanishi Y, Fujieda Y, 他	外科(一)	Neurofibroma of the Gallbladder Not Associated with Neurofibromatosis.	Surg Technol Int. 2016 Dec 16;30:89-92.	Original Article
38	Hanazaki K, Munekage M, Kitagawa H, 他	外科(一)	Current topics in glycemic control by wearable artificial pancreas or bedside artificial pancreas with closed-loop system.	J Artif Organs. 2016 Sep;19(3):209-18.	Original Article
39	Namikawa T, Munekage E, Munekage M, 他	外科(一)	Evaluation of Systemic Inflammatory Response Biomarkers in Patients Receiving Chemotherapy for Unresectable and Recurrent Advanced Gastric Cancer.	Oncology. 2016;90(6):321-6.	Original Article
40	Kitagawa H, Namikawa T, Munekage M, 他	外科(一)	Outcomes of thoracoscopic esophagectomy in prone position with laparoscopic gastric mobilization for esophageal cancer.	Langenbecks Arch Surg. 2016 Aug;401(5):699-705.	Original Article
41	Munekage E, Namikawa T, Kawanishi Y, 他	外科(一)	Synchronous Large Gastrointestinal Stromal Tumor and Adenocarcinoma in the Stomach Treated with Imatinib Mesylate Followed by Total Gastrectomy.	Anticancer Res. 2016 Apr;36(4):1855-9.	Original Article
42	Namikawa T, Munekage M, Kitagawa H, 他	外科(一)	Comparison between a novel and conventional artificial pancreas for perioperative glycemic control using a closed-loop system.	J Artif Organs. 2017 Mar;20(1):84-90.	Original Article
43	Orihashi K.	外科(二)	Mesenteric ischemia in acute aortic dissection.	Surg Today. 2016 May;46(5):509-16.	Original Article
44	Miyazaki R, Anayama T, Hirohashi K, 他	外科(二)	In Vitro Drug Sensitivity Tests to Predict Molecular Target Drug Responses in Surgically Resected Lung Cancer.	PLoS One. 2016 Apr 2;11(4):e0152665.	Original Article
45	Miyazaki R, Anayama T, Hirohashi K, 他	外科(二)	Correction: In Vitro Drug Sensitivity Tests to Predict Molecular Target Drug Responses in Surgically Resected Lung Cancer.	PLoS One. 2016 Nov ;11(11):e0166505.	Original Article
46	Orihashi K, Miyashita K, Tashiro M, 他	外科(二)	Avoidance of Coronary Sinus Injury During Retrograde Cardioplegia.	Ann Thorac Surg. 2016 Dec;102(6):e583- e586.	Original Article

47	Orihashi K.	外科(二)	Efficient Removal of Retained Intracardiac Air Utilizing Buoyancy.	Ann Thorac Surg. 2016 Dec;102(6):e587-e590.	Original Article
48	Yamamoto M, Nishimori H, Handa T, 他	外科(二)	Quantitative assessment technique of HyperEye medical system angiography for coronary artery bypass grafting.	Surg Today. 2017 Feb;47(2):210-217.	Original Article
49	Yamamoto M, Nishimori H, Iguchi M, 他	外科(二)	Pathological investigation of graft-related oesophageal fistula.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2017 Feb 10.	Others
50	Yatabe T, Tamura T, Yamashita K, 他	麻醉科	Influence of dexmedetomidine on cognitive function in volunteers.	J Clin Anesth. 2016 Sep;33:92-6.	Original Article
51	Kadono T, Kawano T, Yamanaka D, 他	麻醉科	Intranasal midazolam administration enhances amnesic effect in rats.	J Anesth. 2016 Jun;30(3):538-41.	Others
52	Kawano T, Iwata H, Aoyama B, 他	麻醉科	The role of hippocampal insulin signaling on postoperative cognitive dysfunction in an aged rat model of abdominal surgery.	Life Sci. 2016 Oct 1;162:87-94.	Original Article
53	Yamanaka D, Kawano T, Tateiwa H, 他	麻醉科	Successful management of dexmedetomidine for postoperative intensive care sedation in a patient with anti-NMDA receptor encephalitis: a case report and animal experiment.	Springerplus. 2016 Aug 22;5(1):1380.	Case report
54	Yamanaka D, Kawano T, Nishigaki A, 他	麻醉科	Preventive effects of dexmedetomidine on the development of cognitive dysfunction following systemic inflammation in aged rats.	J Anesth. 2017 Feb;31(1):25-35.	Original Article
55	Yatabe T, Inoue S, Sakaguchi M, 他	麻醉科	The optimal target for acute glycemic control in critically ill patients: a network meta-analysis.	Intensive Care Med. 2017 Jan;43(1):16-28.	Original Article
56	Nagano Y, Ishida K, Tani T, 他	整形外科	Short and long-term effects of exergaming for the elderly.	Springerplus. 2016 Jun 21;5(1):793.	Original Article
57	Aso K, Izumi M, Sugimura N, 他	整形外科	Nociceptive phenotype alterations of dorsal root ganglia neurons innervating the subchondral bone in osteoarthritic rat knee joints.	Osteoarthritis Cartilage. 2016 Sep;24(9):1596-603.	Original Article
58	Tadokoro N, Kasai Y, Kiyasu K, 他	整形外科	A Delayed Postoperative C5 Palsy due to Spinal Cord Lesion: A Typical Clinical Presentation but Unusual Imaging Findings.	Case Rep Orthop. 2016;2016:7810734.	Case report

59	Izumi M, Petersen KK, Laursen MB, 他	整形外科	Facilitated temporal summation of pain correlates with clinical pain intensity after hip arthroplasty.	Pain. 2017 Feb;158(2):323-332.	Original Article
60	Okanoue Y, Ikeuchi M, Takaya S, 他	整形外科	Chronological changes in functional cup position at 10 years after total hip arthroplasty.	Hip Int. 2017 Feb 15:0.	Original Article
61	Higashi Y, Aratake T, Shimizu S, 他	脳神経外科	Influence of extracellular zinc on M1 microglial activation.	Sci Rep. 2017 Feb 27;7:43778.	Original Article
62	Ashida S, Yamasaki I, Tamura K, 他	泌尿器科	Feasibility and early outcome of high-dose-rate Ir-192 brachytherapy as monotherapy in two fractions within 1 day for high-/very high-risk prostate cancer.	Mol Clin Oncol. 2016 May;4(5):789-793.	Original Article
63	Inoue K.	泌尿器科	5-Aminolevulinic acid-mediated photodynamic therapy for bladder cancer.	Int J Urol. 2017 Feb;24(2):97-101.	Original Article
64	Maeda H, Okamoto K, Namikawa T, 他	がん治療センター	Re-evaluation of hepatocyte replacement by recipient-derived cells after allogenic liver transplantation: Discrepancy between clinical observations and a rat model.	Hepato Res. 2016 Sep;46(10):1037-44.	Original Article
65	Maeda H, Sato M, Kobayashi M, 他	がん治療センター	Validity of the Japanese version of functional assessment of cancer therapy-gastric (FACT-Ga) and its sensitivity to ascites volume change: a retrospective analysis of Japanese clinical trial participants.	Support Care Cancer. 2016 Nov;24(11):4515-21.	Original Article
66	Nishida Y, Morimoto N, Korenaga M, 他	検査部	Genotyping <i>Giardia intestinalis</i> by Using DNA Extracted from Long-Term Preserved Human Specimens Stained with Chlorazol Black E.	Jpn J Infect Dis. 2016 May 20;69(3):244-7.	Original Article
67	Ichikawa A, Matsumura Y, Ohnishi H, 他	検査部	Identification of electrocardiographic values that indicate chronic obstructive pulmonary disease.	Heart Lung. 2016 Jul-Aug;45(4):359-62.	Original Article
68	Nakai M, Iizuka M, Matsui N, 他	薬剤部	Bangle (<i>Zingiber purpureum</i>) Improves Spatial Learning, Reduces Deficits in Memory, and Promotes Neurogenesis in the Dentate Gyrus of Senescence-Accelerated Mouse P8.	J Med Food. 2016 May;19(5):435-41.	Original Article
69	Hirata A, Funato H, Nakai M, 他	薬剤部	Ginger Orally Disintegrating Tablets to Improve Swallowing in Older People.	Biol Pharm Bull. 2016;39(7):1107-11.	Original Article
70	Miyamura M1, Yokota J, Saibara T.	薬剤部	Drug-induced Nonalcoholic Steatohepatitis	Yakugaku Zasshi. 2016;136(4):579-82.	Original Article

71	Abe N, Funato H, Hirata A, 他	薬剤部	Evaluation of Gastric Mucosal Injury Model Animals of Rebamipide Formulation—Study of Therapeutic Equivalence	Yakugaku Zasshi. 2016;136(4):677-84.	Original Article
72	Hayashi N, Ogawa Y, Kubota K, 他	放射線部	Computed Tomography Demonstration of the Production and Distribution of Oxygen Gas Following Intratumoral Injection of a New Radiosensitizer (KORTUC) for Patients with Breast Cancer—Is Intratumoral Injection Not an Ideal Approach to Solve the Major Problem of Tumor Hypoxia in Radiotherapy?	Cancers (Basel). 2016 Apr 1;8(4).	Original Article
73	Arise K, Nishizaki S, Morita T, 他	感染管理部	Continued direct observation and feedback of hand hygiene adherence can result in long-term improvement.	Am J Infect Control. 2016 Nov 1;44(11):	Original Article

計73件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の構成、倫理委員会の運営、審査手順、有害事象対応、各種報告について、記録の保存 ・ 公表	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 対象者の範囲、マネージメントの対象、マネージメント委員会の設置、調査、資料の保存、学外への情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年9回
・ 研修の主な内容 臨床研究概論、研究デザイン、統計手法、臨床研究倫理、被験者保護、利益相反、データマネジメント、品質管理/品質保証、法規指針、等	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・NASHに関するベザフィブレート治療 ・拡大大腸内視鏡の早期大腸癌診断 ・原発性肝癌に対するラジオ波熱凝固療法 ・virtual sonographyを用いた肝癌の局所治療 ・難治性関節リウマチに対する生物製剤治療 ・難治性関節リウマチに対する生物製剤治療 ・難治性膠原病に対する血液浄化療法 ・甲状腺穿刺細胞診 ・内分泌負荷試験の実施 ・経皮的腎生検 ・持続皮下インスリン注入療法 (CSII)の導入 ・持続血糖測定装置 (CGMS)の実施 ・同種骨髄移植 ・自家末梢血幹細胞移植 ・骨髄採取術 ・DICの診断・治療 ・間質性肺炎に対するpirfenidone療法 ・超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査 ・超音波気管支鏡を用いた経気管支リンパ節吸引細胞診検査 ・ナビゲーションシステムを用いた気管支鏡検査 ・非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害療法 ・冠動脈造影、感度婦脈インターベンション ・デバイス植え込み、アブレーション治療 ・神経内科専門医研修 ・小児腎生検 ・小児腹膜透析 ・小児心臓カテーテル検査 ・修正型電気けいれん療法実習 ・乾癬に対する生物学的製剤による治療 ・エキシマランプによる円形脱毛症の治療 ・多発性円形脱毛症に対するミニパルス療法 ・病理勉強会 ・英文研究論文抄読会 ・紫外線発癌におけるタクロリムス軟膏の影響 ・乾癬とメタボリックシンドロームの関与 ・ベセルナクリーム外用治療の自己免疫疾患に与える影響の検討 ・パゾパニブによる血管肉腫の治療 ・ニボルマブによる悪性黒色腫の治療 ・ベムラファニブによる悪性黒色腫の治療 ・皮膚T細胞リンパ腫に対する新規薬剤を用いた治療 ・Cantu症候群における多毛症および皮膚結合織異常メカニズム解析 ・Mowat-Wilson症候群におけるメラニン合成の解析 ・胃癌に対する腹腔鏡下手術 ・食道癌に対する胸腔鏡下手術 ・大腸癌に対する腹腔鏡下手術 ・原発性肝癌に対する広範囲肝切除 ・膵癌に対する膵頭十二指腸切除 ・乳癌に対するセンチネルリンパ節生検 ・血管の露出、遮断、切開、吻合手技 ・心タンポナーデの手術適応判断と心嚢ドレナージ手術 ・末梢動脈疾患に対する血管内治療 ・急性動脈閉塞症の鑑別診断と緊急血栓除術 ・ペースメーカー植え込み手術 ・超音波気管支鏡下縦隔リンパ節生検 ・抗がん剤感受性試験を用いたオーダーメイドがん化学療法 ・3DCT画像を応用した対表イメージングによる低侵襲手術 ・完全内視鏡下胸部外科手術 ・麻酔科講演 (・心臓手術後の高次脳機能障害-TAVIの可能性について考える- ・目標指向型輸液管理について ・筋弛緩と気道 ・慢性疼痛に対するオピオイド治療の潮流 ・Does Regional Anesthesia Affect Functional Outcomes After Surgery? ・Postoperative cognitive dysfunction: neuroinflammation and beyond ・The Fallacy of Persistent Post-Operative Cognitive Decline ・How to 小児麻酔 ・旭川医大ブロックチームの10年から伝えたいこと) ・婦人科骨盤腔内視鏡下手術 ・閉経女性における虚血性心疾患の発症予防を目的としたホルモン補充療法 ・体外受精 ・子宮内膜症の免疫学的診断 ・高齢者の頸部脊髄症に対して電気診断に基づいて行うピンポイント手術 ・ナビゲーションシステムを用いた上位頸椎部スクリュー固定 ・頸椎後縦靱帯骨化症に対する顕微鏡視下前方除圧固定術 ・腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術 ・骨粗鬆症性椎体骨折偽関節に対する小皮切ペースト状人工骨充填術 ・腎筋を侵襲しない前方アプローチ人工股関節手術 ・股関節臼蓋形成不全に対する低侵襲棚形成術 ・転移性骨腫瘍に対するMRガイド下収束超音波治療 ・膝靭帯損傷に対する関節鏡下靭帯再建術 ・肩腱板断裂に対する関節鏡下腱板修復術 ・脳動脈塞栓術 ・解離性脳動脈瘤塞栓術 ・内頸動脈-海綿静脈洞癒塞栓術 ・持続脳室ドレナージ下の脳圧モニタリング ・術中標本からのRNA抽出 ・ニューロナビゲーションを用いた開頭腫瘍摘出術 ・内頸動脈狭窄症に対するステント留置術 ・遺伝性腎癌の遺伝子診断 ・前立腺癌の密封小線源永久挿入療法 ・前立腺癌の高線量率組織内照射療法 ・前立腺癌のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術 ・膀胱癌の光学的診断 ・頭頸部癌に対するリザーバー留置超選択的動注療法 ・インプラント ・口腔癌のセンチネルリンパ節生検 ・進行大腸癌に対するD3リンパ節郭清を伴う腹腔鏡下補助下手術 ・胃癌に対する腹腔鏡補助下手術 ・腹腔鏡下胃切除術における体内吻合術 ・単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 ・ロボット支援腹腔鏡下直腸切除術

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	440人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
小野 正文	内科（消化器）	准教授	26年	
岩崎 信二	内科（消化器）	准教授	30年	
廣瀬 享	内科（消化器）	助教	17年	
水田 洋	内科（消化器）	助教	18年	
寺田 典生	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	32年	
西山 充	内科（内分泌代謝・腎臓）	准教授	23年	
藤本 新平	内科（内分泌代謝・腎臓）	教授	25年	
大西 広志	内科（血液・呼吸器）	講師	19年	
窪田 哲也	内科（血液・呼吸器）	准教授	25年	
砥谷 和人	内科（血液・呼吸器）	講師	24年	
谷岡 克敏	内科（老年病・循環器）	助教	19年	
馬場 裕一	内科（老年病・循環器）	助教	20年	
弘田 隆省	内科（老年病・循環器）	助教	17年	
古谷 博和	内科（神経）	教授	27年	
藤枝 幹也	小児科	教授	32年	
山本 雅樹	小児科	助教	18年	
森信 繁	精神科	教授	34年	
佐野 栄紀	皮膚科	教授	33年	
山上 卓士	放射線科	教授	26年	
花崎 和弘	外科（一）	教授	32年	
杉本 健樹	外科（一）	准教授	31年	
並川 努	外科（一）	講師	25年	
北川 博之	外科（一）	助教	13年	
岡本 健	外科（一）	講師	24年	
西森 秀明	外科（二）	准教授	29年	
山本 正樹	外科（二）	助教	16年	
穴山 貴嗣	外科（二）	講師	20年	
横山 正尚	麻酔科	教授	35年	
泉谷 知明	産科婦人科	講師	23年	
池上 信夫	産科婦人科	講師	24年	
前田 長正	産科婦人科	教授	31年	
池内 昌彦	整形外科	教授	21年	
福島 敦樹	眼科	教授	26年	
兵頭 政光	耳鼻咽喉科	教授	33年	
小林 泰輔	耳鼻咽喉科	准教授	29年	
上羽 哲也	脳神経外科	教授	28年	
井上 啓史	泌尿器科	教授	27年	
山崎 一郎	泌尿器科	准教授	24年	
山本 哲也	歯科口腔外科	教授	31年	
長野 修	救急科	教授	35年	
小林 道也	がん治療センター	教授	32年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状		
管理責任者氏名	病院長 横山 彰仁			
管理担当者氏名	総務企画課長	鬼村 博幸	医療安全管理部長	兵頭 政光
	医事課長	都築 泰仁	感染管理部長	武内 世生
	総務課長	近藤由香里	臨床工学部長	上羽 哲也
	薬剤部長	宮村 充彦	診療情報管理室長	上羽 哲也
	放射線部長	山上 卓士		

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	医事課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	医事課
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	総務企画課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務企画課
		高度の医療の研修の実績	総務企画課
		閲覧実績	総務企画課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	会計課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部、放射線部、検査部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務企画課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	総務企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部・病院事務部長 西村 仁秀	
閲覧担当者氏名	総務企画課長 鬼村 博幸	
閲覧の求めに応じる場所	医事課 医事相談室	
閲覧の手続の概要 諸記録の閲覧を申請する場合は、閲覧申請書を総務企画課に提出する。 諸記録の閲覧を許可した場合は、閲覧許可書を交付のうえ、閲覧場所において閲覧を行うようにしている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 安全管理に関する基本的考え方（安全管理の体制確保という総合的観点から）・ 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項・ 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針・ 医療に係る安全の確保を目的とした、事故報告等の改善のための方策に関する基本方針・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針・ 患者や第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針・ 患者からの相談への対応に関する基本方針・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（有・無）・ 開催状況：年12回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則（平成16年5月26日施行）第3条に定める事項に関するものを審議する。(2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関するものを審議する。(3) 判定した影響度レベルが3b以上のものについて、院内医療問題調査委員会への報告に関するものを審議する。(4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関するものを審議する。(5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関するものを審議する。(6) 研修会等の企画・立案に関するものを審議する。(7) 審議結果のリスクマネジメント担当者会議を通じた周知徹底方策に関するものを審議する。(8) その他安全管理に関するものを審議する。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年42回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 「医療安全の基本」（必須研修）（同内容 8回）・ 「医療事故調査制度について」（必須研修）（同内容 5回）・ 「岡山大学病院における精神科リエゾンチームの取り組み ーせん妄・不眠対策を中心にー」・ 「転倒・転落防止対策チームミーティング報告」・ 「平成27年度インシデント報告」（同内容 3回）・ 「検体の取り直しの現状と採血時の注意点」「医療機器のインシデント対策」「インフォームド・コンセントと診療記録」（同内容 2回）・ 「がん化学療法薬の曝露対策について 一点滴・注射の場面を中心にー」・ 「投薬事故防止のために」（同内容 3回）・ 「患者確認 覚えてください!!キーワード」（同内容 4回）・ 「認知症と転倒」「転倒・転落事故防止について」・ 「倫理問題は会議室で起こってるんじゃない！ー現場の倫理的ジレンマを「個人の悩み」にしないためにー」・ 「医薬品安全管理に関する情報提供」「輸血治療における注意点 ～最近のインシデント事例から～」 「放射線部CT・MRI検査時の注意事項」（同内容 2回）・ 「医療ガス講習会」・ 「抗がん剤の血管外漏出について」「放射線治療の副作用～発症時期と対策～」・ 「投薬事故防止のために（注射薬）」（同内容 3回）・ 「点滴・内服投与、排泄に関連したがん薬物療法時の曝露対策」・ 「レジメン管理に関する院内説明会」（同内容 2回）・ 「個人情報保護法の改正、患者暴力への対応、これからの地方の医学部」・ 「多職種チームで臨床倫理の実際を体験してみよう！」	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

- ・ 各部署において複数診療科や多職種でM&Mカンファレンスやデスカンファレンスを開催し、実施した医療行為や経過について振り返りを行っている。
- ・ 各部署リスクマネージャーが問題点を分析し、改善策・影響度レベルを含め報告を行う。事例内容によっては分析方法の演習も実施し、リスクマネージャーの分析力向上を図る。
- ・ 医療安全管理部においては、各部署から報告のあったインシデントレポートの分析状況及び影響度レベルの妥当性を複数のメンバーによりチェックし、分析が不十分なものや関連会議での検討を要するものを抽出のうえ、専任リスクマネージャーが調査し、必要に応じて関連会議で検討する。
- ・ 検討については、主に医療安全管理委員会で検討するが、必要に応じワーキンググループを設置して改善策を検討のうえ、リスクマネジメント担当者会議で検討する場合もある。また、更なる検討が必要と認められる事例は、院内医療問題調査委員会に諮る。
- ・ 医療安全管理部のコアメンバーによるチームミーティングを週一回開催し、重要な事例や気になる事例についての問題点の分析を行っている。
- ・ 医療機器の不具合情報、医薬品による副作用報告等を医薬品医療機器総合機構 (PMDA) に報告する。
- ・ インシデントによる早急な改善策や注意喚起、周知を図るためリスクマネジメントニュースを発行している。
- ・ 病棟巡視を行って、その結果を病棟に示し、注意・改善を促している。
- ・ 報道された医療事故等の要約を全部署に配布し、事故防止について注意喚起している。
- ・ 平成27年10月に施行された医療事故調査制度について、医療安全管理研修会を開催して病院職員へ周知を行っている。
- ・ 医療安全管理部において死亡事例個人票を作成して全死亡症例の把握と検証を行っている。さらに、事例の検証結果 (医療事故調査制度への該当の有無を含む) を各部署長宛に送付し、双方で確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会その他組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者さんや第三者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染の発生及びその感染経路の調査に関すること2. 感染予防に係る情報の収集に関すること3. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること4. 感染症発生時の措置に関すること5. 院内職員の教育及び啓発に関すること6. 消毒剤等の使用に関すること7. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年33回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本当に大切な感染対策のポイント①・ 本当に大切な感染対策のポイント②・ C型肝炎は治ります・ 血液曝露時のHIV感染予防対策・ 大事な手指衛生・ 細菌の抗菌薬耐性遺伝子の水平伝播・ 針刺し切創・粘膜曝露の現状と防止の心得・ 給食業務における衛生管理～安全な食を提供するには・ まさか、口腔ケアなしで癌治療？・ 口腔ケア実習・ 寄生虫感染について・ 周術期予防的抗菌薬について・ 入院中の発熱・ 風疹と母体感染について・ 薬剤耐性（AMR）対策アクションプランから見たCRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）・ 血液培養コンタミって？中四国国立大学病院の現状・ 膵癌：最近の話題・ 抗菌薬の適正使用について・ 周術期管理の質保証とその意義・ 改訂された敗血症ガイドライン・ 手指衛生・ 滅菌方法について：AC/EOG/STR滅菌・ 尿路感染症について～どこまで意識する？どうやって疑う？ESBL産生大腸菌～・ 病院職員の健康管理・ 2016年検出菌状況・ 2016年検出菌状況の録画上映（3回）・ 病院の環境整備・ 病院の環境整備の録画上映（4回）	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 感染情報レポートは、週報（毎週1回）、月報（毎月1回）、年報（毎年1回）作成し、感染症法に基づく病原体（MRSA、ペニシリン耐性肺炎球菌、感染性胃腸炎の病原菌、薬剤耐性緑膿菌など）、β-ラクタマーゼ非産生アンピシリン耐性ヘモフィルス、3世代セフェム耐性基質拡散型β-ラクターゼ産生菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、流行時期に応じてインフルエンザ、ノロウイルスなどの検出状況を示している。
 2. MRSAについては、サーベイランスを行い、感染と保菌、院内発生と持込を診療科別、病棟別に示している。
 3. これらの情報は、ベースラインを把握し、菌検出状況に応じて現場に出向き感染対策を徹底することによって、アウトブレイクの予防と早期察知に役立て、さらに感染対策実施状況の評価に活用している。
 4. 感染管理部に報告が必要な病原体として、多剤耐性緑膿菌、バンコマイシン耐性腸球菌、基質拡散型β-ラクターゼ産生菌、ペニシリン耐性肺炎球菌、クロストリジウム・ディフィシル菌、下痢および嘔吐、食中毒、結核および結核の疑い、インフルエンザ、麻疹、水痘・带状疱疹、風疹、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎、百日咳、疥癬をあげている。
 5. 診療科、病棟、外来、検査部から専任看護師に報告があれば、
 - ① 専任看護師は直ちに部署に出向き、患者発生状況を調査する
 - ② 感染が拡大しないように具体的な感染対策を指導する
 - ③ 接触者（患者、面会者、医療従事者）を確認し、必要な予防策を講じる
 - ④ 医師、看護師、感染管理部合同カンファレンスを開催し、情報の共有と対策の徹底を図る
 - ⑤ 随時専任看護師から感染対策委員会委員長に報告する
 - ⑥ 各診療科、病棟から所属長に報告する
 - ⑦ 必要に応じて保菌者スクリーニング、環境培養、詳細な疫学調査を実施する
 6. 週1回、感染対策ラウンド
 7. 週1回、感染症カンファレンス
 8. 全部署の速乾性手指消毒薬使用量のモニタリング

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回
・ 研修の主な内容： 1. 麻薬・向精神薬の使い方（1回、対象：研修医） 2. 薬剤の基礎知識—静脈内注射を安全に使用するために（1回、対象：2年日以降の看護師） 3. 平成28年度 医療安全管理研修会「投薬事故防止のために」（計6回、対象：全職員） 4. 平成28年度 医療安全管理研修会「医薬品安全管理に関する情報提供」（計2回、対象：全職員） 5. レジメン管理に関する院内説明会（計2回、対象：全職員） 6. 副作用対策を含めた放射線療法・化学療法に関する研修会（1回、対象：全職員）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤までに関する事項 4. 患者に対する与薬や薬剤管理指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係わる情報の取扱いに関する事項 6. 院内特殊製剤の取扱いに関する事項 7. 他施設（医療機関・薬局等）との連携に関する事項 8. 医薬品安全性情報等の管理体制の充実に関する事項 9. 放射性医薬品の取扱いに関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①添付文書情報（医療用医薬品） ②添付文書情報（一般用医薬品） ③注射剤の配合変化 ④緊急安全性情報（イエローレター） ⑤安全性速報（ブルーレター） ⑥医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行） ⑦薬品安全対策通知 ⑧使用上の注意の改訂情報 ⑨厚生労働省発表資料（医薬品等関連）⑩DSU（医薬品安全対策情報） ⑪急性中毒情報ファイル ⑫重篤副作用疾患別対応マニュアル ⑬妊婦授乳婦と薬 ⑭回収情報（医薬品）等を参考とする。 （情報の周知方法） ・ 全学グループウェアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照（MDview） ・ 院内通知文書 ・ DIニュースの発行 ・ 各種勉強会、講習会等 ・ 病棟担当薬剤師により各病棟、診療科のカンファレンス等にて連絡を行う。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年約100回
・ 研修の主な内容： 全職員、新人看護師、研修医等を対象として、安全使用において技術の習得が必要と考えられる機器の適正な使用方法に関する研修、インシデント対策に関する研修、新規導入機器の導入に関する研修等を実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 安全使用において、特に技術の習得が必要と考えられる機器を含む人工呼吸器、人工心肺装置、輸液ポンプ等の定期点検、日常点検を実施し、機器管理システムにて機器名、製造番号、点検・修理履歴、保守点検予定日等を機器毎にシステム管理を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 使用部署に取扱説明書を整備。 医療機器製造販売業者、関連学会、医薬品医療機器総合機構等から収集した安全情報は、病院の電子掲示板を用いて、どのPC端末からでも閲覧できるように整備し、情報の周知を図っている。また、緊急を要する場合は、直接関係部署等に出向き、説明を行い情報の周知を行っている。さらに、院内で発生した医療機器のインシデント報告に対しても、その安全対策、対応策等を検討し、研修会やリスクマネジメントニュース等で周知を実施している。 院内で確認された医療機器の不具合については、病院管理者への報告を行い、必要に応じて医薬品医療機器総合機構(PMDA)に医療機器安全情報として報告を行うようにしている。 未承認機器及び適応外使用を行う機器については、院内の高難度新規医療技術審査委員会にて、院内での使用に関して安全性及び有効性が担保されていることを評価した上で、臨床使用するようにしている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 責任者の資格 (医師) 歯科医師)・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況・ 副病院長 (医療安全管理担当) を医療安全管理責任者として配置し、その統括の下で、医療安全管理部が中心となり病院全体で組織的・継続的に安全管理に取り組んでいる。・ 副病院長 (医療安全管理担当) 及び医療安全管理委員会委員長は、医療安全管理部長をもって充てることとし、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の構成員として医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を配置している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況<ul style="list-style-type: none">医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成。医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施。医薬品の業務手順書に基づく業務の実施。医薬品の安全使用のため必要となる情報の収集。医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施。・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況<ul style="list-style-type: none">添付文書情報 (医療用医薬品)、添付文書情報 (一般用医薬品)、注射剤の配合変化、緊急安全性情報 (イエローレター)、安全性速報 (ブルーレター)、医薬品・医療機器等安全性情報 (厚生労働省発行)、薬品安全対策通知、使用上の注意の改訂情報、厚生労働省発表資料 (医薬品等関連)、DSU (医薬品安全対策情報)、急性中毒情報ファイル、重篤副作用疾患別対応マニュアル、妊婦授乳婦と薬、回収情報 (医薬品) 等を参考に情報収集を行う。全学グループウエアの掲示板、部門ライブラリー、医薬品情報参照 (MDview)、院内通知文書、DI ニュースの発行、各種勉強会、講習会等、病棟担当薬剤師より各病棟、診療科のカンファレンス等で情報の周知を行う。・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無)・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月、退院患者の約1割について監査を実施し、監査結果を各診療科に報告している。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 毎月、退院患者の約1割の退院サマリについて、監査を実施し、監査結果を各診療科に報告することにより記載内容の向上を促している。昨年度、過去の監査結果より各診療科で改善すべき目標を立てるよう指導し、目標の改善率をあげる取り組みを開始した。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（1）名、専任（2）名、兼任（ ）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 (2) 重要な検討内容について、患者への対応状況を含め病院長へ報告すること。 (3) 重大な問題が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図ること。 (4) 医療事故の防止及び対策に係る調査・分析に関すること。 (5) 改善策を立案すること。 (6) 改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 (7) 安全管理に関する教育・研修に関すること。 (8) 安全管理に関する連絡調整に関すること。 (9) 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 (10) 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。 (11) その他安全管理に関すること。 	
<p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> (ア) 専任者は医師・薬剤師の資格を有している。 (イ) 医療安全に関する必要な知識を有している。 (ウ) 本院の医療安全管理部に所属している。 (エ) 本院の医療安全管理委員会の構成員である。 (オ) 医療安全対策の推進に関する業務に専ら（常勤職員であって就業時間の5割以上）従事している。 <p>専従の医師1名及び薬剤師1名を平成30年4月1日に配置できるよう検討中。</p>	

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

- ・医療安全管理部コアメンバーによるチームミーティングを週に1回開催し、各部署から報告のあったインシデント事例に関するモニタリングを行っている。
- ・医療安全管理研修会におけるアンケート調査およびe-learningでの研修受講後のテスト実施により医療安全に関する意識の向上を図るとともに、職員の医療安全の認識についてモニタリングを行っている。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に新規医療技術安全管理部門、医薬品安全管理部門、医療機器安全管理部門を置き、院内における高難度新規医療技術（本院で実施したことのない医療技術を含む）を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、各部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に具申する。
 - ・実施の適否、使用条件等について委員会の意見を踏まえて決定し、その結果を診療科に通知する。
 - ・実施報告書に基づき診療記録の記載内容等を確認し、適正に実施されていたかどうかを確認する。必要に応じてモニタリングの結果を診療科に通知する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・活動の主な内容：
 - ・医療安全管理部に新規医療技術安全管理部門、医薬品安全管理部門、医療機器安全管理部門を置き、院内における未承認・適応外の医薬品及び医療機器を用いた医療の実施に関する申請があった場合は、各部門において実施の適否・使用条件等を確認し、高難度新規医療技術審査委員会に具申する。
 - ・実施の適否、使用条件等について委員会の意見を踏まえて決定し、その結果を診療科に通知する。
 - ・実施報告書に基づき診療記録の記載内容等を確認し、適正に実施されていたかどうかを確認する。必要に応じてモニタリングの結果を診療科に通知する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・ 無

- ・監査委員会の開催状況：年 1回
- ・活動の主な内容：
 - ・病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査に関すること。

・学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明すること。

- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有 無 ）
- ・委員名簿の公表の有無（ 有 無 ）
- ・委員の選定理由の公表の有無（ 有 無 ）
- ・公表の方法：本院 HP に公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の 要件 該当状況
吉川 清志	高知医療センター 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
中西 法貴	中西・高野法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
西脇 永敏	高知工科大学 環境理工学群 教授		学識経験を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
赤澤 正人	愛媛大学医学部 運営部長		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	2
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
久米 基彦	高知大学医学部附属病院 医療安全管理部 医師専 任リスクマネジャー		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年148件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年2,462件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 高知大学医学部附属病院医療安全管理部規則（平成16年5月26日施行）第3条に定める事項に関することを審議する。
 - (2) 報告のあったインシデントの分析及び影響度レベルの判定に関することを審議する。
 - (3) 判定した影響度レベルが3b以上のものについて、院内医療問題調査委員会への報告に関することを審議する。
 - (4) インシデントごとの解決策及び再発防止策等の企画・立案に関することを審議する。
 - (5) 医療安全管理体制システム及びマニュアルの見直しに関することを審議する。
 - (6) 研修会等の企画・立案に関することを審議する。
 - (7) 審議結果のリスクマネジメント担当者会議等を通じた周知徹底方策に関することを審議する。
 - (8) その他安全管理に関することを審議する。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：弘前大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：東北大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
弘前大学医学部附属病院への立入りは、10月23日に実施予定。
東北大学病院からの立入り受入れは11月21日に実施予定。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

平成15年4月1日に「高知医科大学医学部附属病院患者相談窓口取扱要領」を制定するとともに、病院玄関インフォメーションに患者相談コーナーを設けた。その後、平成15年10月1日に旧高知大学との統合及び平成16年4月1日の国立大学の法人化に伴う改廃を経て、現在に至る。相談コーナーに寄せられた事由に対して必要に応じて看護師、専任リスクマネージャー、医療ソーシャルワーカー、医学部・病院事務部事務職員が単独あるいは複数で対応している。また、相談コーナー以外でも電話、病院ホームページ、投書箱（院内14箇所設置）に寄せられた相談等にも対応している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・「医療事故調査制度について」(必須研修) (同内容 5回)
- ・「インフォームド・コンセントと診療記録」(同内容 2回)

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

・医療安全管理責任者

- H28. 5. 31 国立大学附属病院医療安全管理協議会総会
- H28. 6. 12 医療事故・紛争対応研究会 東海・北陸セミナー
- H29. 2. 23 医療事故調査制度に係る「支援団体統括者セミナー」

・医薬品安全管理責任者

- H28. 11. 25 日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成28年 4 月	

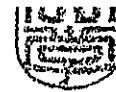
(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 高知大学医学部附属病院ホームページ内の「患者さんへ」、「広報活動」、「病院案内」において、情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 * がん治療センター 複数の診療科で行われている「がん診療」や「緩和ケアチーム」「外来化学療法」などを一元的に管理し、それぞれの機能が充分発揮されるよう企画調整を行っている。 * 内視鏡診療部 各疾患分野で内視鏡を用いた診断と治療を専門に行う部門を独立統括し、各診療科との連携を円滑にすることで、内視鏡を用いた専門的な診断と治療の需要に柔軟に対応している。 * 光線医療センター 乳腺外科、心臓血管外科、泌尿器科、消化器外科が連携して、特殊抗原を用いた診療・研究・教育を行う。 * 免疫難病センター 免疫難病の診療にあたる関係診療科が連携。	



(様式第8)

高大医医12号
平成29年10月2日

厚生労働大臣 殿

(管理者)
高知大学医学部附属病院長 横山 彰仁

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議等が実施する研修（検討予定）に参加させる予定。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（1）名、専任（2）名、兼任（ ）名
うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成30年4月1日措置予定。

専従の医師1名及び薬剤師1名の人員確保を検討中。